

従

来の新島襄については、教え子が先生を崇めるといふ視点で語られています。それがNHKの歴史秘話ヒストリアや大河ドラマ「八重の桜」を契機にして、八重が私的な妻の立場からジョーを語る視点が導入されました。どうも八重はジョーが神格化・教祖化されるのが嫌だったらしく、だからあえてジョーは欠点のある普通の人だと主張しているようです。それが教え子の反感を買って、悪妻呼ばわりされることになった原因ではないでしょうか。今回は、私も八重側の視点から、襄をめぐる教え子と妻の綱引きについてお話しさせていただきます。



会場 **神田カンファレンス・ルーム**
東京都千代田区神田錦町 3-18-3 錦三ビル 4階

【第一部】10:45～11:10
「新島 襄 生誕の地」碑前祭

会場：錦三・七五三太公園 南東側 石碑前

【第二部】11:30～12:45
講演「妻・八重から見た、新島 襄」

会場：神田カンファレンス・ルーム



講師：吉海 直人 よしかい なおと

同志社女子大学名誉教授

1953年長崎県生まれ。國學院大學大学院博士後期課程修了。博士(文学)。専門は平安朝の文学、特に源氏物語と百人一首の研究。NHK大河ドラマ「八重の桜」の折に『新島八重愛と闘いの生涯』(角川選書)を出版して以来、新島八重を中心に研究している。近著『定本 新島八重伝』(武蔵野書院)。

同志社大学創立者新島 襄 生誕之地 碑前祭と講演会

参加費無料・事前申し込み不要

妻・八重から見た、新島 襄

2025年 2月 12日(水) 神田カンファレンス・ルーム

【第一部】

「新島 襄 生誕之地」碑前祭



同志社の創立者
新島 襄

同志社の創立者・新島 襄は、1843年2月12日（天保14年1月14日）江戸安中藩邸（現在の学士会館の地）に生まれ、21歳まで江戸で成長しました。今年には新島の生誕182年になります。新島は幕末の1864（元治元）年、

激動する日本の将来を憂い、国禁を犯して脱国し、約10年間にわたってアメリカ、ヨーロッパで学び、キリスト教の洗礼を受けて帰国しました。そして国内外の多くの人々の協力を得て、1875（明治8）年京都の地に同志社大学の前身となる同志社英学校を設立しました。



新島襄生誕之地石碑 錦三・七五三太公園東南側石碑前

【第二部】 講演

「妻・八重から見た、新島 襄」

みなさんは NHK の「歴史秘話ヒストリア『ハンサムウーマン』」や大河ドラマ「八重の桜」はご覧になりましたか。八重の生き方はいかがだったでしょうか。その八重は同志社の校祖、新島 襄の妻ですが、夫の死後に新島 襄の語り部として活躍しています。



それは公的な教師としての新島 襄ではなく、私的な八重の夫としての新島 襄です。八重が襄をどのように見ていたのかについてお話しさせていただきます。



都営三田線／都営新宿線／東京メトロ半蔵門線
「神保町」駅下車 A9 出口から徒歩1分

東京メトロ東西線
「竹橋」駅下車 3a 出口から徒歩5分

問い合わせ先
同志社東京校友会／担当 片岡

【TEL】 03-5579-9728

【FAX】 03-5579-9729

【MAIL】 event@doshisha-tokyo-alumni.jp